『病院全体の改善活動につなげるための当院の取り組み』
～事例検討で明らかになった課題と改善活動～

浜松医療センター　医療安全推進室
○専従セーフティマネジャー　山本　智美　　室長　小澤　享史

医療安全全国共同行動の目標７の推奨する対策から、当院の取り組みとして１．静脈血栓塞栓症の予防対策への取り組み、２．抗血栓薬中止規約に関する取り組み、３．事例検討会（M&Mカンファレンス）への取り組みについて紹介する。

１．　静脈血栓塞栓症の予防対策への取り組み

周術期の静脈血栓塞栓症の事例が発生し、M&Mカンファレンスを行った。M&Mカンファレンスでは①主治医から経緯の説明②検証③リスク評価表の説明④今後の課題について検討を行った。再発防止に対する取り組みとして、過去の静脈血栓塞栓症の発生調査、オンライン・リスク評価と予防法決定システムの構築、抗凝固療法の導入、静脈血栓塞栓症の予防・発生時の対応に関するマニュアルの作成、間欠的空気圧迫法の中央管理と院内流通システムの構築、肺塞栓症発症患者のサーベイランスの実施、院長による職員への医療安全研修会の開催を行った。また現在継続中の取り組みとしては、①定期的な静脈血栓塞栓症プロジェクトチーム会議の開催②肺塞栓症発症患者のサーベイランス③院長による医療安全研修会の開催を行っている。

２．　抗血栓薬中止規約に関する取り組み

抗血栓薬休薬に関する事例が発生した。要因として①知識不足②コミュニケーションエラー③思い込み④教育不足⑤環境の問題として、抗血栓薬休薬に関して院内ルールがなかったことや、休薬情報の周知不足などがあった。そこで、再発防止への取り組みとして、抗血栓薬に関するワーキンググループを立ち上げ、抗血栓薬休薬規約と抗血栓薬休薬に関する説明書及び同意書の作成を行い、職員へ周知を行った。

３．事例検討会（M&Mカンファレンス）への取り組み

当院では以前から有害事例や死亡事例に対しM&MカンファレンスやＣＰＣを行っていたが、医師が主体となった診断・治療についての検証ではなく、他職種でのチーム医療を検証する場であったり、他職種が積極的に参加し多くの視点で意見交換したいと考え、平成23 年度からは医療安全推進室が行う事例検討会を開催している。当院で行う事例検討の目的は、事例で行われた処置やケアを振り返り、患者にとって最善であったか、安全であったかなどを検証し医療安全の推進とチーム医療の質向上を目指すことである。事例検討の進行として、ファシリテーターから毎回、目的・注意点・テーマについて説明を行っているが、注意点で特に重要な事として、個人や特定の部署の非難や攻撃となるような発言は避け、患者にとって最善な方法であったかを検討することを強調している。事例検討では何が起きたのか、なぜ起きたのか、どうすればよかったかについて検証を行うことと、

用語の確認を行っている。紹介した 2 事例から今後の課題として、ＲＲＳへの対応と倫理的問題が上がった。当院の医療安全力を高めるためには、様々な手法の要因分析や事例検討会、M&Mカンファレンスなどを道具として、事例にあった方法を選択し活用していきたい。また事故事例に関わった職員は精神的ストレスを抱えるため、エンパワーメントされ前向きな気持ちになれるような事例検討会を目指したい。

（平成24年度「医療安全管理シンポジウム」西部地区）